

必ずできる!

基礎固め ゼロからはじめる Webアプリケーション開発

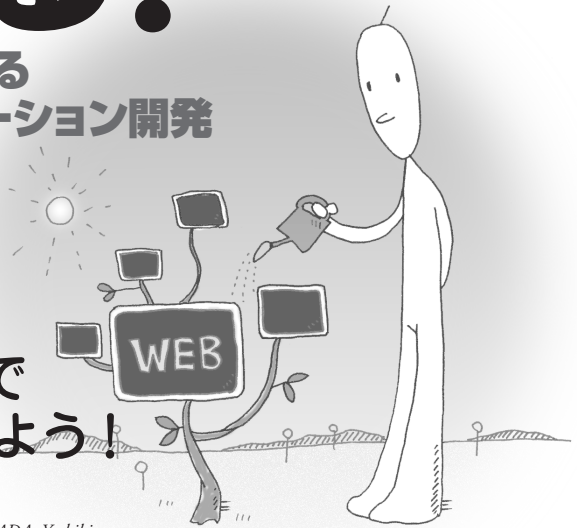
ASP.NET

第6回

DataGridコントロールで データベース連携を極めよう!

—その1—

山田 祥寛 YAMADA, Yoshihiro
<http://www.wings.msn.to/>



Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
MSDE

Level



Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥ASPディレクトリに収録しています。

¥BEGINASPNET
「グループスケジュール管理」アプリケーション

はじめに

今回は、ASP.NETの代表的なサーバーコントロールのひとつであるCalendarコントロールを利用して、データベースに登録されたスケジュールのカレンダー表示やダウンロード機能を作成してみました。サーバーコントロールを利用することで、カレンダー表示のような複雑なビューも簡単にデータベースと連携できてしまうASP.NETの魅力を、改めて実感できたのではないのでしょうか。

第6回となる今回は、引き続き、代表的なサーバーコントロールの実践的な用法について学ぶことにします。今回扱う「DataGridコントロール」は、第3回(2004年1月号)でも紹介したように、あらかじめ用意されたデータセットの内容をグリッド表に展開するためのサーバーコントロールです。しかし、DataGridコントロールの役割は、単なる表示だけではありません。DataGridコントロールには、次のようなデータを編集/操作するための、実に多

彩な機能も用意されているのです。

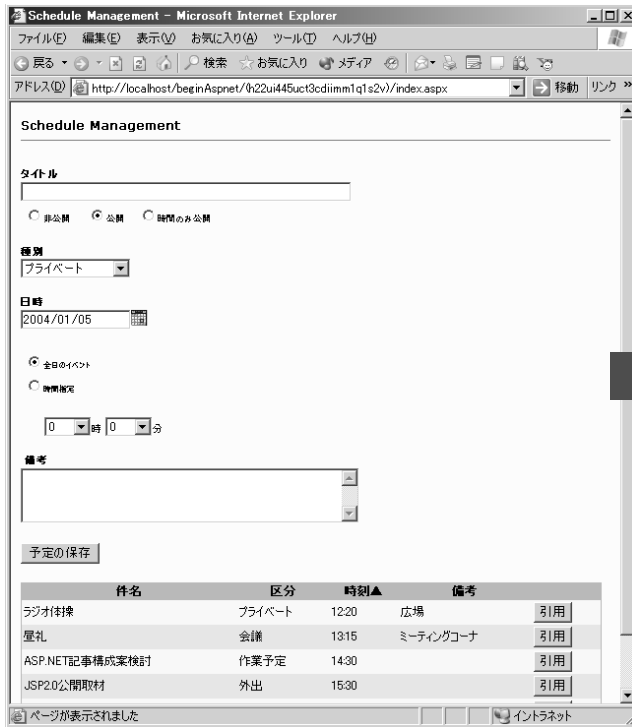
- ・データの更新/削除
- ・ソート機能
- ・ページング機能
- ・フィルタ機能

そこで今回と次回の2回にわたって、このDataGridコントロールの機能を利用しながら、「スケジュール登録画面」をバージョンアップしてみることにしましょう。データのソート/抽出/更新/削除など、盛りだくさんの内容ですが、ひとつひとつを独立した機能として理解できるのが、ASP.NETの良いところでもあります。見かけの複雑さに惑わされず、個々の単機能として理解するよう努めてみてください。

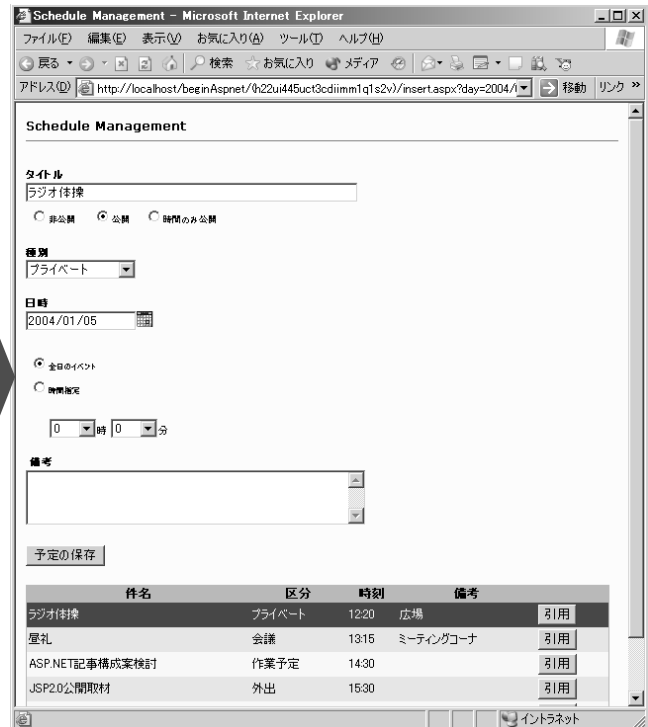
データの引用

まず最初はDataGrid.SelectedIndexChangedイベントを利用して、「グリッド表の特定行を選択したタイミングで、

図1：グリッド表から行を選択し単票フォームに反映



ブランクの単票フォーム (insert.aspx)



既存スケジュール情報を選択すると、そのタイトルと種別を自動セットできる

グリッド表の内容を画面上部の単票フォームに反映させる」サンプルを作成して試みることにします (図1)。

スケジュール帳に入力する際に、同じような項目を何度も手入力するのは煩雑です。この機能を利用すれば、既存データの内容を引用しつつ、部分的に必要な箇所だけを変更することが可能になります。

* グリッド表に

コマンドボタンを追加する

ASP.NETアプリケーションの構築は、まず画面レイアウトを確定し、それからイベントに対応する処理を実装してゆくのが基本です。既存の画面に機能を追加する場合も、その手順は変わりません。まずは、insert.aspxのDataGridコントロールに行を「選択」

するためのコマンドボタンを追加配置する必要があります。

フォームデザイナー上のDataGridコントロールを右クリックし、コンテキストメニューから「プロパティビルダ」を選択してください。「<DataGrid名>

プロパティ」ダイアログが起動するので、左メニューから「列」タブを選択します。すでに「選択された列」にはいくつかの列が定義されているはずですが、ここで新たに「使用可能な列」として「ボタン列」-「選択」を追加し

図2：「<DataGrid名>プロパティ」ダイアログ

